

令和4年1月6日

# 南の風 2021 ウインターカップ特集号

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

## 2021ウインターカップ特集号です。

女子の決勝です。

決勝は、ウインターカップ3連覇を目指す桜花学園と、今年のインターハイで惜しくも準決勝で桜花学園に66対63で敗れ、リベンジを目指す京都精華の戦いでした。

何回か紹介しました、桜花学園の4番 朝比奈あずさ選手は、横浜南部ミニ連のサンライズ（現洋光台サンライズ）出身です。中学は洋光台第二中学校で神奈川県大会ベスト4の成績を残しました。また私たちのスピカバスケットボール教室に3年間在籍していましたので、応援にも熱が入りました。

### 《第1Q》

立ち上がり、桜花は4番朝比奈選手のハイピックからのダイブに、5番伊波選手がパスして先制する。6番平下選手のドライブからのジャンプショットやステップイン、3P シュートも決まる。また9番横山選手(2年)のペイントでの冷静なジャンプショット、5番伊波選手のペイントでのシュートも光った。

一方の京都精華は、2人いる留学生のうち、18番ウチエ選手（2年生188cm）がスターターであったが、すぐ15番のジェシカ選手（1年188cm）に交代した。そのジェシカ選手がローポストでのシュートやゴール下のステップシュート、また、桜花の朝比奈選手とのコンタクトに負けないドライブからのショットを決める。また、1年生の16番八木選手の合わせからのジャンプショットや、4番瀬川選手の3Pシュートが効果的であった。**19対17で桜花学園がリード**

桜花学園の選手は、たいへん落ち着いてオフェンスを展開しシュートも冷静に打っていた。オンザコートで5人が何処からでも攻められることが強みであった。また、立ち上がりから激しいディフェンスで、ボールマンプレッシャーを仕掛け、留学生選手のジェシカ選手にも、朝比奈選手がからだを張った気迫あるディフェンスを見せた。

京都精華は、オフェンスでは15番ジェシカ選手が、朝比奈選手のディフェンスに対抗するコンタクトプレーや打点の高いシュートで得点した。さらに1年生のガード、17番堀内選手のパスワークと同じく1年生フォワード、16番八木選手の合わせからのショットが見事であった。二人は中学時代からのコンビであり、合わせのタイミングが絶妙であった。そして4番瀬川選手はスペースを生かして冷静に3Pシュートを沈めた。

### 《第2Q》 ※ここから play by play で書きます

京都精華 18番ウチエ選手のゴール下ショットで始まる。さらに瀬川選手が2本目の3Pシュートを沈める。（19対22 京都精華リード）

桜花はすかさず、朝比奈選手がペイントアタックドライブを仕掛けファウルをもらう。2本沈める。京都精華は波状的に攻め、中からキックアウトして瀬川選手がこの日3本目の3Pシュートを決める。

（21対25 京都精華リード）

オフェンスでボールの動きが止まりリズムが取れない桜花だが、ディフェンスをがんばりターンオーバーを誘い、12番玉川選手の3Pシュートが決まる。

次号に続けます。